

北九州市地域コミュニティビジョン検討会議について (進捗報告)

1. 第3回会議(令和7年7月16日)

(1) 議題説明(事務局)

「(地域)コミュニティはなぜ必要か、それはどのようなものか」の確認と共有

- ① コミュニティは人の幸福のためには必要不可欠であること
- ② コミュニティへの関わりは人によって多様であること

(2) 意見交換

コミュニティは人の幸福に必要な他者とのつながりを創出し、誰もが多様なコミュニティに参加していることについて、構成員から異論がなかった。

(主な意見)

- ・地域コミュニティに何が必要か整理し、組織のスリム化、見直しを図るべき。
- ・自治会・行政の役割の整理や地域団体間の役割の線引きが必要。
- ・地域で稼ぐという発想や補助金の柔軟性等の視点は考える必要がある。
- ・若い人の巻き込み方や若い人のアイデアを受け入れる仕組みづくりが必要。
- ・地域のリーダーになる人への研修や、地域が上手くまとまったノウハウを集めて水平展開をすることが必要。

(3) Webアンケート調査の実施と質問項目の案について議論

アンケートの実施は、配布手法(Web+紙)や対象者(市外在住者も対象)で意見が分かれた。

※会議詳細は、市ホームページ等で、議事録・動画を公開しています。
ご覧ください。

2. 今後の予定

第4回会議は、これまでの議論やアンケート調査等を踏まえて秋頃に実施予定。

3. 参考資料

資料1: 第3回会議説明資料「これまでの振り返りと本日の議題について」

資料2: 地域コミュニティに関する市民アンケートについて

資料1

Kitakyushu
Action!
動かせ、未来。北九州市

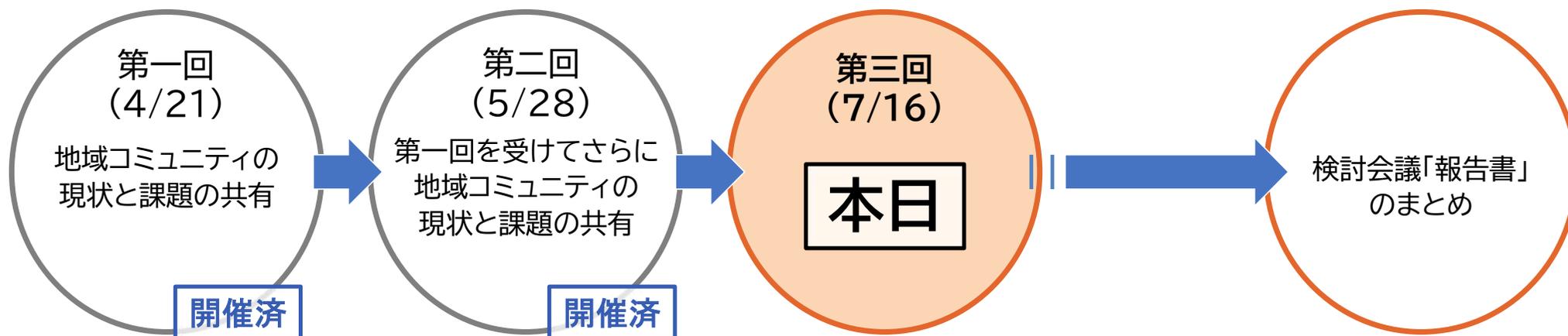
これまでの振り返りと本日の議題について

骨太の方針

北九州市地域コミュニティビジョン

未来像「多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ」

- ① 望ましい未来像を描き、そこから逆算して課題を解決
- ② 3つの大事な視点
「必要に応じて現状から変化」「関係者の垣根を越えて接続・連携」「好循環を生み出していく」
- ③ 市民性・気質を踏まえた議論を



これまでの検討会議(振り返り) 第二回会議(5/28)の意見交換

● 意見交換:事前に発表資料を提供いただいた構成員3名の説明を皮切りに、自由に意見を述べる形式で進行

発想の転換、若者の視点

発想の転換や若い人の発想も取り入れ、将来の話をするを前提としたい。

もともと安心して暮らすため

地域活動はもともと安心して暮らすために取り組まれてきたはず。「やらなきゃ」といった義務感が強くなるとズレてしまう。

安心・幸福感・互助

デジタルをいくら使っても、地域コミュニティで最終的に一番重要になるのは安心と幸福感(幸福を感じるコミュニケーション)。

あり方と必要な機能とは

2040年を見据え、安心して幸福感を感じて暮らすために地域コミュニティはどうあるべきか。

地域特性に沿う展開

地域特性が異なるため、コミュニティのあり方や運営の仕方を北九州全体で一律に決めるのは無理がある。地域特性に応じて変える部分があっても良い。

地域と学校の視点

どこまで踏み込めるのかは別として、地域コミュニティにとって学校の役割は大きい。将来的な担い手育成にもつながる重要な視点。

持続可能性を高める視点

地域活動や地域運営にビジネスの視点、NPOや企業と掛け合わせる視点は重要。その結果、地域コミュニティの持続可能性や新しい可能性が生まれそう。

地域ニーズの把握が大事

地域の取り組みは地域のニーズにもとづいて行うと受け入れやすく地域ニーズの把握が大事だが、意外とやっていないのではないか。

市民センターの課題

市民センターはコミュニティにとって重要だが、利用する人しない人で意見が異なり、ハード面とソフト面の両方での議論のすり合わせが大事。

現状課題と活用案など

町内会加入のハードルを下げる方法。シニアの活動を後押しする方法。こども食堂が注目される背景。

議論の振り返り

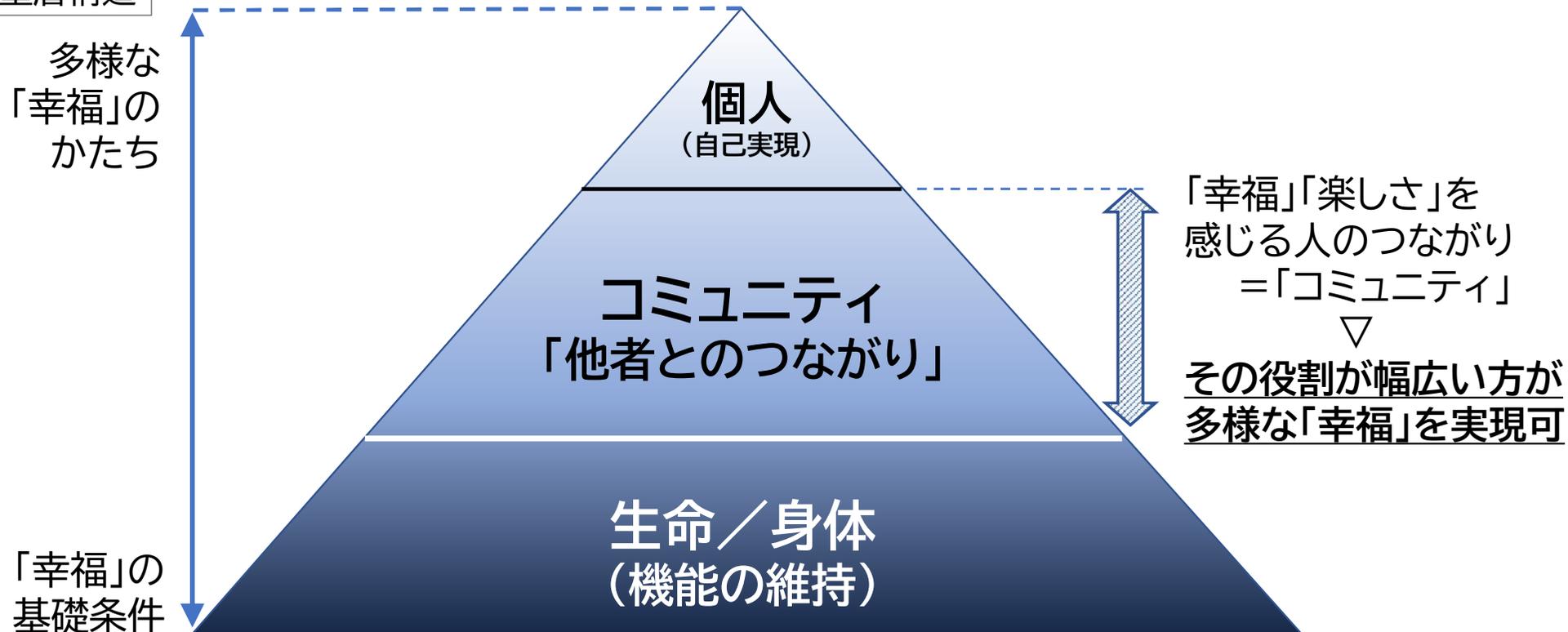
地域コミュニティは、

- 安心安全な暮らしが大事
- 幸福感を感じるコミュニケーションが大事

第三回検討会議でご議論いただきたいこと①

アプローチ①「コミュニティとは人の幸福に必要な他者とのつながり」 (ウェルビーイング)

幸福の重層構造



出典:「ウェルビーイング・幸福の重層構造」(廣井良典)をもとに作成

人の幸福に必要な他者とのつながりの創出⇒コミュニティ

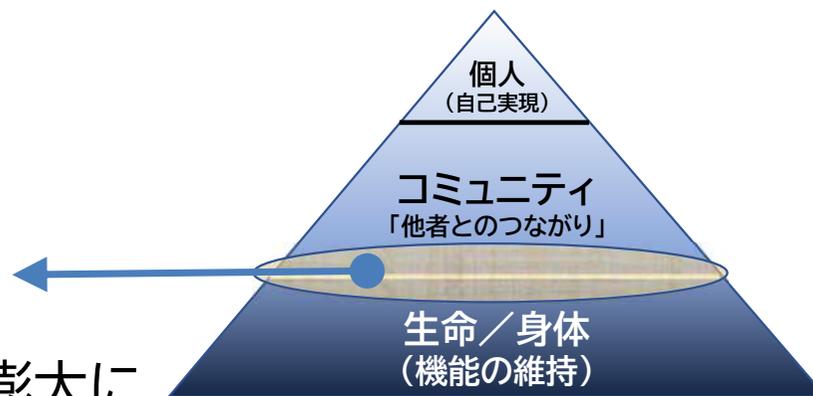
第三回検討会議でご議論いただきたいこと①

アプローチ①「コミュニティとは人の幸福に必要な他者とのつながり」 (ウェルビーイング)

コミュニティの中でも
「生命／身体(健康)の維持」に近い機能は、
安全安心のために大事



身近な地域で取り組むことが効果・効率的
仮にすべて公助で代替する場合はコストが膨大に



事例 1 見守り

福祉協力員は、6,203人が活動(令和7年3月末)

事例 2 防犯

生活安全パトロール隊は、7,765人が登録(令和7年3月末)

事例 3 環境衛生

ごみステーションは、市内約35,000ヶ所に設置(令和7年3月末)

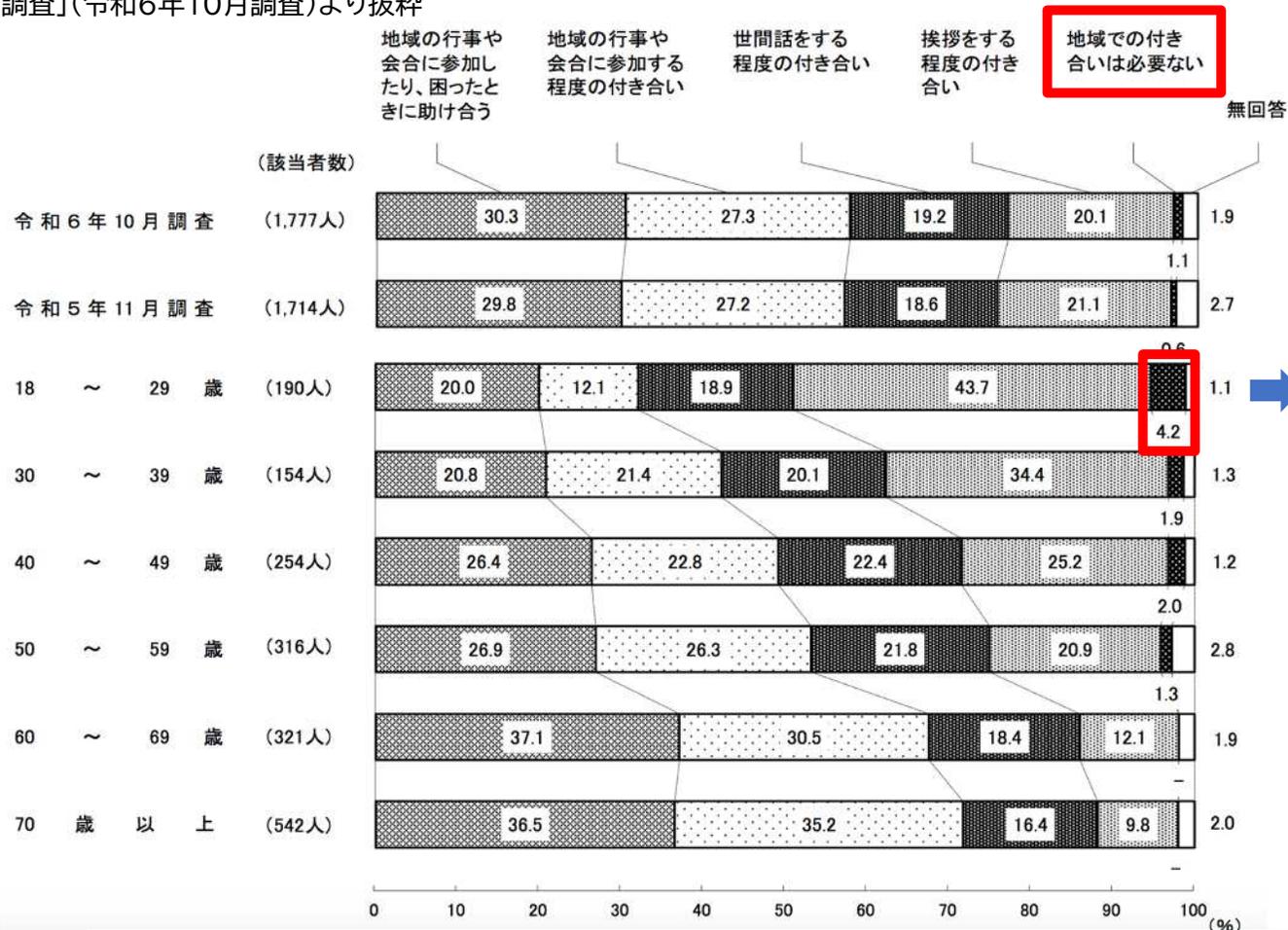
議論の振り返り

- 発想の転換と若者や将来の視点が必要

第三回検討会議でご議論いただきたいこと②

地域での付き合いはどの程度が望ましいと思うか

内閣府「社会意識に関する世論調査」(令和6年10月調査)より抜粋



地域での付き合いは必要ない

→ 18歳~29歳は

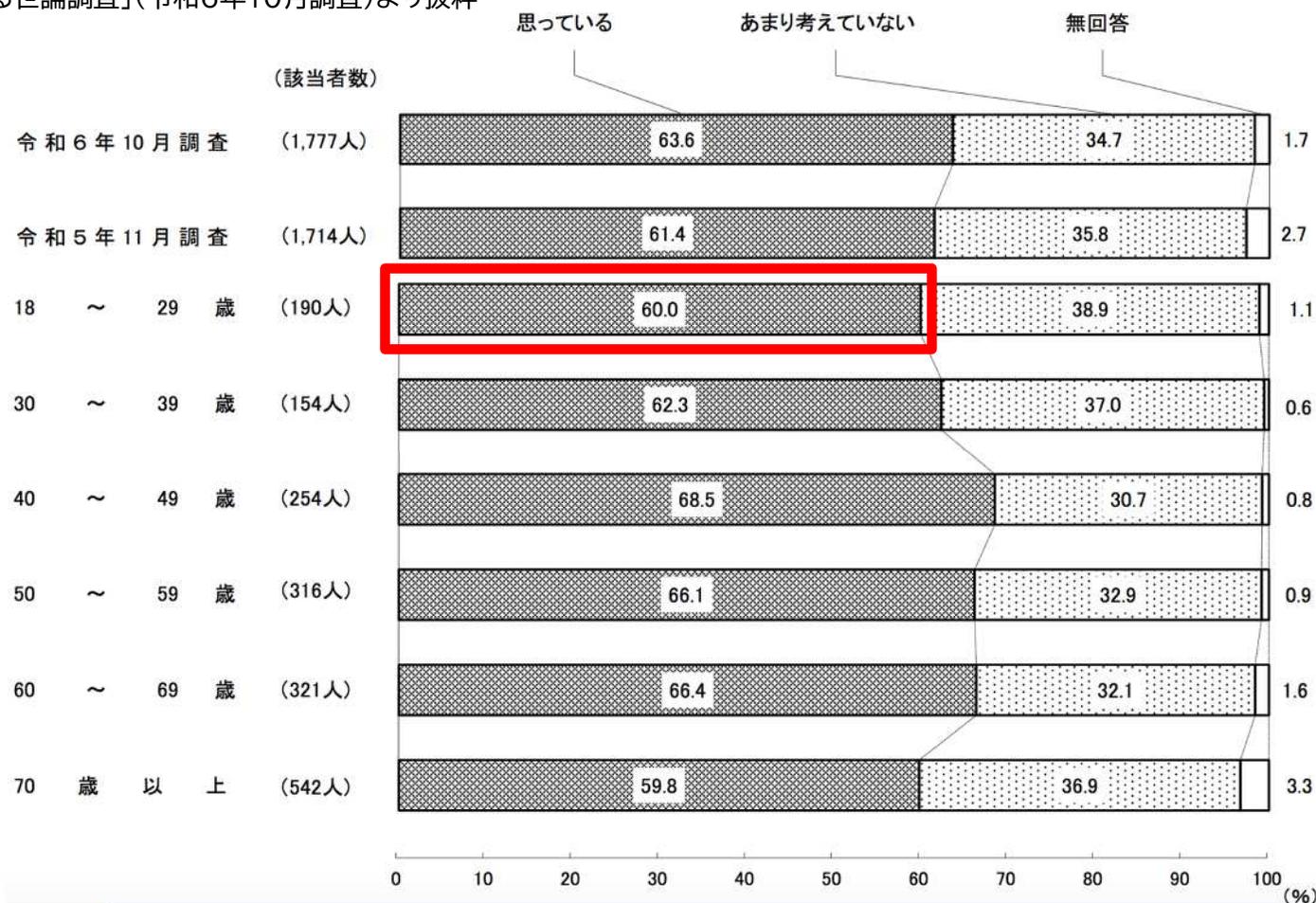
4.2%

地域でのつながりに必ずしも否定的ではない

第三回検討会議でご議論いただきたいこと②

何か社会への役に立ちたいと思っているか

内閣府「社会意識に関する世論調査」(令和6年10月調査)より抜粋



「社会の役に立ちたい」と思っている人は

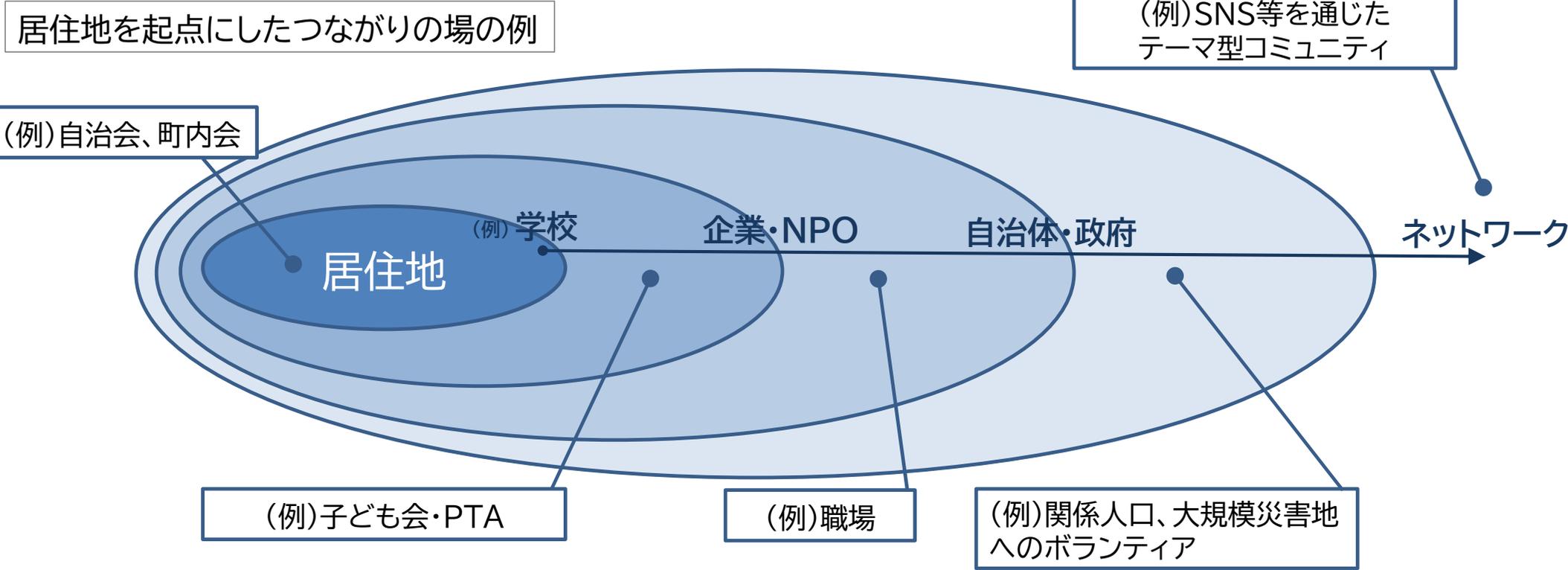
→ 18歳~29歳は

60%

社会や人との関わりに必ずしも否定的ではない

第三回検討会議でご議論いただきたいこと②

アプローチ②「他者とのつながりは多様である」



誰もが多様なコミュニティに参加しており、

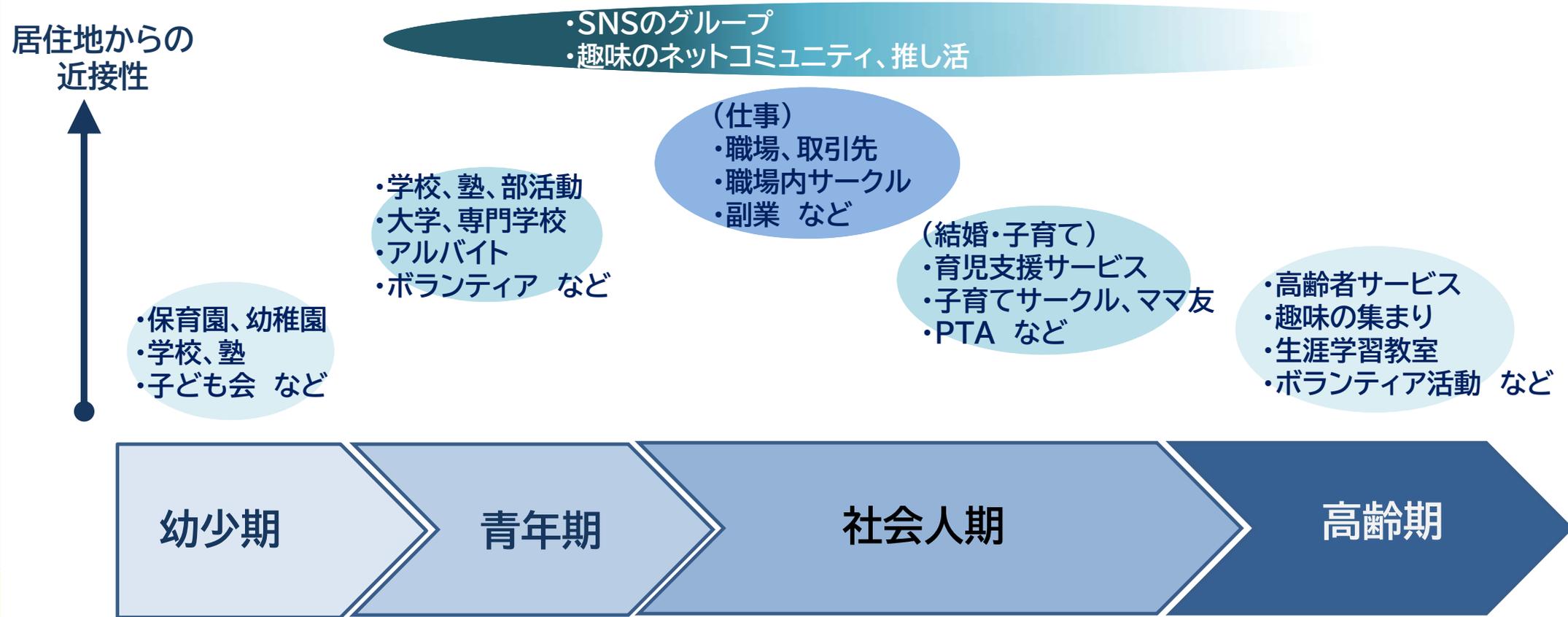
居住地、目的に応じて関わり方が多様

第三回検討会議でご議論いただきたいこと②

アプローチ②「他者とのつながりは多様である」

ライフステージから見たつながりの場の例

(ライフステージごとに関心の高い場を例示)



年齢・家族構成・ライフステージに応じて関わり方が多様

第三回検討会議でご議論いただきたいこと

本日の議題「ビジョンの原点の深掘り」

人の幸福に必要な他者とのつながりの創出⇒コミュニティ

居住地・ライフステージ・目的等に応じて関わり方が多様



第三回で議論したいこと

(地域)コミュニティはなぜ必要なのか

(地域)コミュニティとはどのようなものか

意見交換

議論の振り返り

○ 地域の取り組みは地域のニーズにもとづいて
行くと受け入れやすく地域ニーズの把握が大事

市民アンケート調査の例(たたき台)

(1)調査方法
(2)実施期間

Webアンケート調査
2～3週間程度

質問の例

I.地域の認識、ニーズ

- 「地域」・「コミュニティ」からイメージする範囲は？
- 地域生活の満足度は？
- 地域での困りごとは何か？
- 近隣での助け合いはあるか？
- 地域に相談相手はいるか？
など

II.活動の認知・参加

- 地域・コミュニティで行われている活動を知っているか？
- 地域活動やテーマ型活動等へ参加しているか？
- 参加している活動の種類や参加する理由
- 参加しない理由
など

III.将来の活動への意向や見込み

- 参加したい、してみたいと思う活動は？
- 参加しやすい条件は？
(活動時間や情報、手段など)
- 自分が貢献できるスキルや経験は？
- 活動で得たい経験やスキルは？
など

ビジョン策定の過程をオープンにし、市民の意見を十分反映したビジョンとするため、市民の意見聴取の一環として、WEBを用いたアンケート調査を実施。

1. 目的

地域活動へ参加していない(参加が期待される)層を中心とした現状・ニーズの把握

2. 調査方法

Webアンケート調査:① 調査会社のネットワークを活用して広くアンケートを配布

② その他、子育て世代・Z世代など参加を幅広く呼びかけ

《ビジョン策定に向けた意見聴取の取組と位置づけ》

